



ストリング・ゼム・アロング

文=ジョージ・カックル

第10回

人生のメタファーとしてのロード・ソング

もうすぐジャクソン・ブラウンが来日するので、改めていろいろと聴き直してみたら、道をテーマにした曲がいくつか目に留まった。そこで今回はジャクソン・ブラウンの曲を中心に、'ロード・ソング'を紹介しようと思う。そもそもアメリカ人は、生まれながらにして旅に出ることに憧れがある。少なくとも俺の周りにはそうだった。若い頃は友達と一緒に、いつかフォルクスワーゲンのミニバンに乗ってアメリカを旅しようとしたものだ。でも、実際に大人になって仕事や家族を持つと、なかなかロード・トリップに行く時間を見つけれない。旅を続けられるのは、ごく限られた人たちなんだ。ミュージシャンや長距離トラックの運転手、プロ・サーファーでもない限り、自由な時間はあまりないからね。

'The Road' は、人生のメタファーだと思ふ。音楽だけでなく、小説や映画の世界でも同じだ。ジャック・ケルアックの小説 'On The Road' やデニス・ホッパーのロード・ムービー 'イージー・ライダー'、アーロー・ガスリー主演の映画 'アリスのレストラン' は、アメリカ人のハートにしみ込んでいる。『アリスのレストラン』は赤いフォルクスワーゲンで旅をする話で、

俺はそれに感化され、実際に友人とともにニューオーリンズまで旅したことがある。

道は人生の旅を意味している。そして旅は、目的地に着くことより、その過程での様々な経験の方が大切だ。旅に出るために旅に出る。先には何があるか分からないけど、そこに向かう時間を大切にしたい。俺も昔、山づたいに旅をしていたが、その時も頂上に着くことが目的ではなかった。登っている間が楽しく、その経験が自分にとっての財産になったと思う。人生も同じだろう。人間は生まれた瞬間から死に向かっている。死が人生の旅の終わり、つまり頂上だ。俺は死ぬために生きていくわけではない。死が訪れるまでの時間が、生きていくということだ。日本のロード・ムービーといえば、あの渥美清の『男はつらいよ』だろう。俺も大好きな映画だ。やはり日本人もアメリカ人同様のスピリットをこの映画に感じたからこそ、あれほど人気が出てシリーズ化もされたのだろう。

前置きが長くなったが、最初はジャクソン・ブラウンの『孤独なランナー (Running On Empty)』から始めよう。この曲はジャクソンが1977年にリリースした5枚

めのアルバムタイトルのトラックだ。'running on empty'には、ふたつの意味がある。ひとつは、車のガソリンが切れてきて、運転席にある燃料計がエンプティ(E)になっているのに走り続けること。例えばこんな感じに使う。'Oh man, I'm running on empty!'. ちょっとしかお金がないから2〜3ドル分しか入れられなくてしょっちゅうガス欠になっていた自分の若い頃を思い出すよ(笑)。二つめは、心の余裕がなくなっても、人生は走り続けなければいけないという意味。▲1965年、17歳だった僕は、誰かと一対一で走っていた。今では、僕はどこを走っているの分からず、ひとすら走り続けている▼▲1969年、21歳だった僕は、この道でいこうと決めた。それが、今走っている道にいつなったのかは、自分でもわからない▼とジャクソンは歌う。ちょっと迷



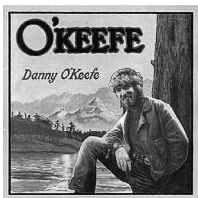
Jackson Browne "Running On Empty" Asylum [US] ●6E113 [1977] ◆Asylum [EU] ●7559-60325-2

incl. 'Running On Empty'

いを感じられるような内容だ。彼は48年生まれだから、この歌詞の年齢は本人と合っている。当時のジャクソンは、もしかしたらガス欠気味だったのかもしれない(このアルバムの中にジャクソンが一人で書いた曲は二つだけ、あとはカヴァーか共作だしね)。しかしコーラスでは、▲走り続ける、燃料計がEになっても。走り続ける、何も見えないままで▼と繰り返し、ジャクソンの不屈の闘志が示される。アルバム冒頭を飾るこの曲は勢いに満ち、それもあってか、シングル盤は全米チャートで最高11位を記録するヒットとなった。

アルバムとしての『孤独なランナー』は、ライブ音源や移動中でのリハーサル音源から構成された、ジャクソンの77年のツアーのドキュメンタリー的な内容で、しかもすべてが旅に関係する曲で構成されていた。だから、アルバム全体で 'The Road' が表現されていると言ってもいいだろう。

次はダニー・オキーフの『さすらいの旅路 (The Road)』だ。俺がこの曲を初めて聴いたのは、前述のジャクソン・ブラウンの『孤独なランナー』だった。そのアルバムの2曲目に入っていて、あまりにも歌



Danny O'Keefe "O'Keefe" Signpost [US] ●SP8404 [1972] ◆サインポスト (ワナー) ●WPCR15031

incl. 'The Road'

詞がジャクソン風だったので、彼のオリジナルだとずっと思いついでいた。でも最近ダニー・オキーフのヒット曲「グッド・タイム・チャリリーズ・ガット・ザ・ブルース」が収録された72年のアルバム『オキーフ』を聴いていたら、この曲が流れてきた。そこで、クレジットを見ると、ダニー・オキーフの曲だと分かったんだ。こちらのヴァージョンの方が、ジャクソン版より暗く憂鬱だけどね。

内容は、旅をしているミュージシャンの寂しい生活の話だ。モータール生活の連続だが、一曲でもいい曲ができれば旅を続けられると歌っている。だから部屋の中の作曲について綴られている。例えば、こんなフレーズがある。'You write about the moon, and you dream about the stars'. お前は月のことを書いて、星のことを夢見る。この星の夢とは、自分もスターにな



The Allman Brothers Band
"Brothers And Sisters"
Capricorn [US] ●CP0111
[1973] ユニバーサル
©UICY15225~6

incl. 'Ramblin' Man'

タイトルの 'ramblin' は、うろつくという意味。前の項で紹介したボニー・レイットの曲と同じように、自分は旅する人間として生まれてきた男だから、その時が来たら理解してくれと歌っている（この曲の主人公は、ミュージシャンという設定ではないようだ）。'Well my father was a gambler down in Georgia. And he wound up on the wrong end of the gun.' 俺の親父は、ジョージアのギャンブラーだった。金を巻き上げた拳銃に銃で撃たれて死んでしまった。'wrong end of the gun.' とは拳銃の間違った方、つまり砲身の先にいる＝撃たれた、という意味。続いて、俺は長距離バスの後部座席で生まれたんだからしょうがないだろうと歌われる。放浪がやめられないのは、自分が受け継ぐ血のせい、というわけだ。ちなみに、噂によるとオールマン兄弟とジャクソン・

ブラウンとイーグルスのバーニー・レドンは、一時、カリフォルニアで一緒に住んでいたらしい。

●

ロード・ソングといえば、イーグルスの「テイク・イット・イージー」は外せない。この72年のデビュー曲は、シングル・チャートで12位を記録、彼らのキャリアを作ったと言ってもいいだろう。もともとジャクソン・ブラウンが書いていた曲に、グレン・フライが歌詞を足したものだ。

この曲の最初のヴァースは、半分冗談としか思えない。主人公は道を走りながら、7人の女性のことを考えている。でもよく聴くと、その中の4人は主人公を自分だけのものにした、二人は彼を殺したい、そしてあとの一人はただの友達と言っている、なんて歌っている。でも、そんな悩みがあっても、テイク・イット・イージー。あれこれ考えずに、のんびり行こうぜ。自分のタイヤが回っている音で頭がおかしくなっちゃあしょうがない。もうちょっと軽くいこうぜ。まずは落ち着き先を見つめるんだ。次のヴァースでは、アリゾナのウインズローの街角に立っていると、フォードのトラックを運転している女性がスピードを落

として彼を品定めする。ここでまたテイク・イット・イージー。君の愛で僕が救われるか知りたいんだ。うまくいくかどうかは分からないけど、二人がここにまた来ることはもうないんだから、どうかドアを開けて僕を乗せてくれ、と主人公は歌う。

最後のヴァースでは、こうだ。頭の中は悩みごとだらけだけど、道を走りながらそれを軽くしている。本当の僕をあげたいりしないような恋人を捜している。でも見つめるのは難しい。でも、テイク・イット・イージー。どこかにいる女性の愛がきつと僕を救ってくれる。道に出て自分を捜す、恋を探す、それが目的だ。

「テイク・イット・イージー」、人生という旅に出ている俺たちにとって、これほど心強い言葉はない。だからこそ、今でも歌い継がれるロックのスタンダードとなったのだろう。



Eagles
"Eagles"
Asylum [US] ●SD5054 [1972]
アサイラム (ワーナー)
©WPCR75126
incl. 'Take It Easy'

りたいという願望のことだ。この曲の主人公は、こんな希望を秘めつつ旅を続けている（この歌詞は、少し変化しただけだが、曲の最後の方でまた登場する）。

「The ladies come to see you if your name rings a bell.' 〆お前の名前が彼女たちの頭の中の鈴を鳴らせば、彼女たちは会いにきてくれる。この曲の 'ring a bell' は、思い出すという意味。知っていた人の名前を聞いて思い出したとき、頭の中で鈴が鳴ると表現する。恐らくこの曲の主人公は、かつてピットと飛ばしたことがあるが今では忘れ去られている存在なのだろう。つまり、また有名になれば、女たちが自分のところにくっつきと集まってくると歌っているんだ。

最後のヴァースでは、〆お前はモーターの部屋をハシゴして何マイルも旅を続ける。でもそれは金のためじゃない、しかも短い間だけなんだと歌われるが、そのあとでもう一度、先ほどの歌詞が少し変わって出てくる。'You're right about the moon, but you're wrong about the stars.' 〆月のことは言っていた通りだが、星のことは間違っているよ。そして、'It's just another town along the road.' 〆それは旅の道

沿いにある他の街にすぎないんだ、というフレーズがくる。つまり、旅を続けているからただ単に違う街に来ているだけで、主人公の夢は叶ってはいない。'Gamblers in the neon clinging to guitars.' 〆ネオンの光の下でギャンブラーたちがギターに惹きつけられてやってくる、と歌われるこのミュージシャンの旅の終わりは一向に見えてこないという意味だ。皮肉というか幸運にも、このアルバムで彼はスーパー・スターになり、夢は叶ってしまったけどね。

●

今度はジャクソン・ブラウンとよく一緒にライヴをしたり、彼の曲をカヴァーしてきたボニー・レイットの曲を見よう。89年に全米アルバム・チャートの1位にまで達した『ニック・オブ・タイム』のラスト・ナンバー「ザ・ロード・マイ・ミドル・ネーム」だ。名字と名前の間に入るミドル・ネームは、アメリカ人のほとんどが持っている。結婚をした女の人は、自分の名字をミドル・ネームにすることもよくある。

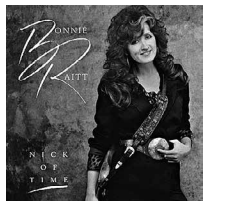
この曲では、〆ミドル・ネームが「道」なのは、私がミュージシャンで、いつも旅に出ているからと歌われる。この曲で彼女が言いたいことはこうだ。私に惚れたら

ダメよ、いつまた旅に出してしまうかもしれないから。だからあなたも、私の母親と同じように、私の自由を分かちなさい。ミドル・ネームはあだ名みたいなもの。正式なミドル・ネームがあっても、冗談であだ名をミドル・ネームにしてしまうこともある。

また、セーリング好きがキャプテン、野球好きがスラッガーと名乗ったりするくらい自由なものなんだ。

●

オールマン・ブラザーズ・バンドが73年にリリースしてアルバム・チャートの1位になった『ブラザーズ・アンド・シスターズ』は、ご存知だろう。そのなかでも一番有名な「ランブリン・マン」は、シングル・カットされて、まもなくシングル・チャート2位に到達、サザン・ロックの定番曲になった。作曲そしてリード・ヴォーカルは、一昨年来日したディッキーク・ベッツだ。



Bonnie Raitt
"Nick Of Time"
Capitol [US] ●CDP 7 91268 2
[1989]
incl. 'The Road's My Middle Name'